

NISAが1000万口座台で10兆円弱! ジュニアNISAが20万
口座弱で300億円弱!! そのNISAで投資されているのは、
グローバル株や日本株、人工知能/AI関連ファンド!!!

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISAが1000万口座台で10兆円弱! ジュニアNISAが20万口座弱で300億円弱!!

2017年2月28日(火)に金融庁がNISA(少額投資非課税制度)口座の利用状況について最新調査結果(速報値)を公表した(URLは後述[参考ホームページ]①)。NISA口座開設数は2016年12月末現在、1069万口座で、買付額は9兆4756億円であった(*導入された2014年1月以降)。**NISAは既に約1069万口座と10人に1人が口座を開設、実際に投資が行われた口座は推計643万口座と、利用者は600万人を超える**(*643万口座…口座開設数1069万口座に、日本証券業協会が公表するNISA口座稼働率/主要証券10社/2016年末時点の60.2%をかけたもの)。同時に発表されたジュニアNISAは2016年12月末現在、19万口座で買付額は289億円だった。

NISA口座の開設・利用状況調査

(2015年・2016年末時点および2017年2月28日時点の最新値。全金融機関の2016年12月末は速報値、主要証券10社は2月27日発表の2017年1月末時点が最新)

2017年2月28日現在

公表機関	金融庁 及び推測		金融庁 及び推測		日本証券業協会 (日証協) ～月次ベース～		日本証券業協会 (日証協) ～月次ベース～		日本証券業協会 (日証協) ～月次ベース～	
	対象	NISA取扱全金融機関 (銀行・証券会社等) 699社	対象	NISA取扱全金融機関 (銀行・証券会社等) ～速報値～	主要証券会社10社*	主要証券会社10社*	主要証券会社10社*	主要証券会社10社*		
公表日	2016年5月27日	構成比	2017年2月28日	構成比	2016年1月20日	構成比	2017年1月18日	構成比	2017年2月27日	構成比
基準日	2015年12月末時点	比率(%)	2016年12月末時点	比率(%)	2015年12月末時点	比率(%)	2016年12月末時点	比率(%)	2017年1月末時点	比率(%)
総開設口座数	9,876,361	100.0%	10,690,000	100.0%	4,742,400	100.0%	5,092,533	100.0%	5,094,352	100.0%
買付が行われた口座(構成比=稼働率)	5,598,915	56.7%	6,432,981	60.2%	2,661,404	56.1%	3,064,562	60.2%	3,042,847	59.7%
稼働率	56.7%	—	60.2%	—	56.1%	—	60.2%	—	59.7%	—
平均買付額(万円)	61.9	—	47.1	—	74	—	77	—	29	—
年間買付額(総購入額)(億円)	34,675	100.0%	30,311	100.0%	16,979	100.0%	15,971	100.0%	2,118	100.0%
累計買付額(総購入額)(億円)	64,445	—	94,756	—	31,168	—	47,139	—	49,257	—
積立口座数(積立投資契約件数)	906,316	9.2%	—	—	364,315	13.7%	397,653	13.0%	378,242	12.4%
備考	・総開設口座数は2015年12月末時点で投資可能な勘定が設定されている口座数。 ・買付が行われた口座の約560万件は総開設口座数988万件に全証券会社の2015年12月末時点の稼働率(56.7%)を掛け合わせて推計したもの。 ・累計買付額(総購入額)は制度開始2014年1月以降の総買付額。		・総開設口座数は2016年12月末時点で投資可能な勘定が設定されている口座数。 ・買付が行われた口座の約643万件は総開設口座数1069万件に主要証券10社の2016年12月末時点の稼働率(60.2%)を掛け合わせて推計したもの。 ・累計買付額(総購入額)は制度開始2014年1月以降の総買付額。		・総開設口座数は2015年の利用枠が設定された勘定設定口座数。 ・買付が行われた口座は2014年又は2015年の利用枠のいずれかで買付された口座数。 ・年間買付額(総購入額)は2015年の買付金額。 ・累計買付額(総購入額)は制度開始2014年1月以降の総買付額。		・総開設口座数は2016年の利用枠が設定された勘定設定口座数。 ・買付が行われた口座は2014年、2015年又は2016年の利用枠のいずれかで買付された口座数。 ・年間買付額(総購入額)は2016年の買付金額。 ・累計買付額(総購入額)は制度開始2014年1月以降の総買付額。		・総開設口座数は2017年の利用枠が設定された勘定設定口座数。 ・買付が行われた口座は2014年、2015年、2016年又は2017年の利用枠のいずれかで買付された口座数。 ・年間買付額(総購入額)は2017年の買付金額。 ・累計買付額(総購入額)は制度開始2014年1月以降の総買付額。	

*主要証券会社10社…大手証券会社5社とインターネット専門証券会社5社。

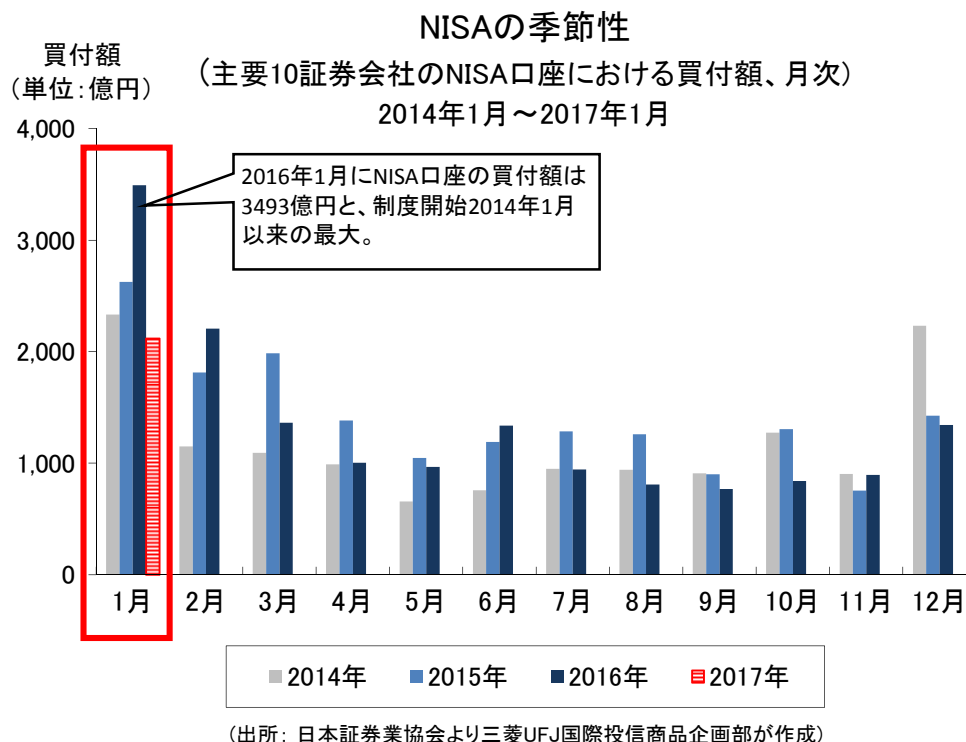
(出所: 金融庁、日本証券業協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

2017年1月の主要証券会社10社分NISAは季節性で増加

以上はNISA全体の速報で確報は3月末～4月中旬に発表される。2017年のNISA最新利用状況については、既に2017年2月27日(月)、日本証券業協会が主要証券10社における2017年1月末時点のNISA口座開設・利用状況の調査結果を公表している(URLは後述[参考ホームページ]②)。

これはNISAを取扱う主要証券会社10社(大手証券5社とネット専門証券5社)を対象とし、口座数・買付額でNISA全体の約5割(47.6%・49.7%～2016年末時点)を占め、月次かつ速報性があり、有用なものである。

主要証券10社の2017年1月のNISA口座における買付額は2118億円と、前月2016年12月(1343億円)に比べ775億円増加(+57.7%)、2016年2月(2206億円)以来の大きさだった。これはNISAの季節性によるものだ。NISAの買付額は年間を通じて1月が最も多く、次いで12月が多い。毎年1月にその年の投資非課税枠が利用開始になる事と、12月末に期限間近となり未使用分の駆け込み投資が起こる事が大きい。2016年1月の買付額は3493億円と、制度開始2014年1月以来の最大となっているが、これはNISAの非課税枠が2016年1月より120万円に引き上げられ(←100万円から)、その最初の1月だった事で加速したものと思われる。



開始以来3年で、NISA口座稼働率が6割(主要証券10社の2016年12月末)と順調に拡大してきたが、足元ペースが落ちてきているようにも見える。2017年1月の買付額は、過去3回の1月と比べて最も小さい。単月で見ても、2016年後半以降、買付額はやや鈍化している様だ。

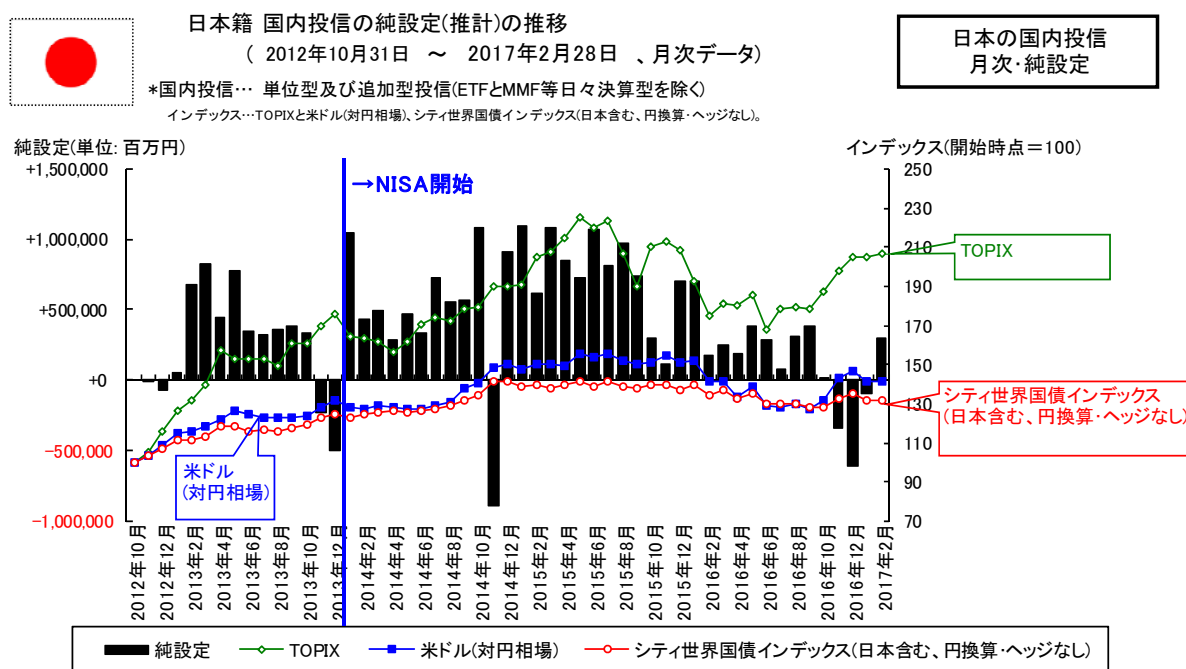
「口座獲得のペースが巡航速度に近づいたことで、今後の地域銀のNISA戦略は、口座獲得から利活用の促進に重点が移ることになりそうだ。」(*利活用…「利用」と「活用」2つの言葉の意味を掛け合わせた言葉。2017年2月27日付けニッキン投信情報～URLは後述[参考ホームページ]③)と報じられていた通り、2017年からの4年目NISAでは、より一層のNISAの利便性を理解した上で、活用が広がり、投資が拡大していく事が望まれる。

NISAおよびNISAの主たる投資対象である日本の投信で、これまでどの様に投資がなされたかを見る事も重要な情報だろう(*主たる投資対象…NISAでの買付額において投信61.7%、上場株式35.8%、ETF1.7%、REIT0.9%～2016年9月末時点～URLは後述[参考ホームページ]④)。そこでNISAの最新2017年2月の投資動向を見る。

2017年2月のNISA投資動向～既存投資家は4カ月ぶりの資金純流入～

NISAの投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替する事とする。

まず **NISAの既存投資家を示す投信全体の純設定は2017年2月に+2966億円と、2016年10月以来4カ月ぶりの資金純流入**だった。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

NISAの既存投資家はグローバル株や人工知能(AI)関連ファンドを志向、AI関連ファンドは2月に+3500億円!

4カ月ぶりの純流入となった2月だが、これはグローバル株がほとんどで、新規設定の続く人工知能(AI)関連ファンドによるところが大きい。人工知能(AI)関連ファンドは、投資対象がAI関連企業あるいは投資手法にAIが活用されるが、2月の純設定は+3500億円近くとなった。2月の純設定を投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年2月に最も純設定の大きかったのは、グローバル株、次いで米国大型ブレンド株、アジア株(除く日本)、ハイイールド債、日本債**だった(次頁グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。米国大型ブレンド株、アジア株、ハイイールド債は「その他」に含まれる)。グローバル株は2月の純設定が+3521億円と、前月1月(+597億円)の6倍弱、2016年の年間純設定額(+2690億円)を単月で超える最大の純流入だった。

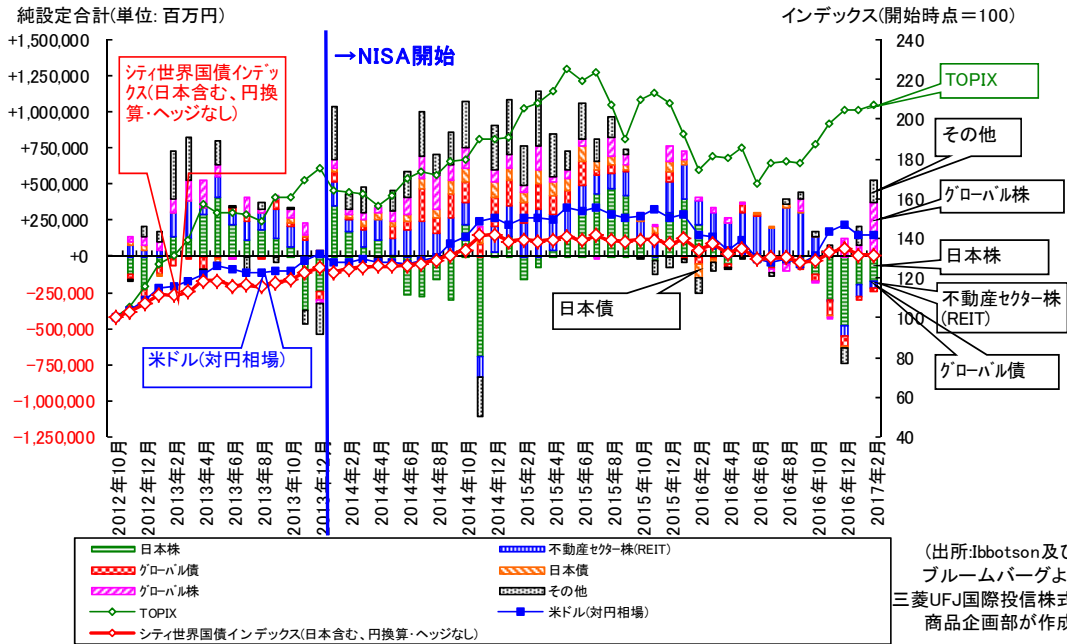
一方、日本株は前月に引き続き純流出が最大であるが、-1683億円に鈍化した(←1月-1895億円←2016年12月-4771億円/2014年11月の-6839億円以来の大きな純流出額 *11月8日の米大統領選挙後の株高をうけて利益確定の売りが膨らむ←11月-2951億円)。2016年に約2.4兆円弱が純流入も11月以降純流出の続く不動産セクター株(REIT)も、2017年2月の純設定額は-407億円と鈍化傾向だ(←1月-807億円←2016年12月-686億円←11月-43億円)。



日本籍 国内投信の主要分類別純設定(推計)の推移
(2012年10月31日 ~ 2017年2月28日、月次データ)

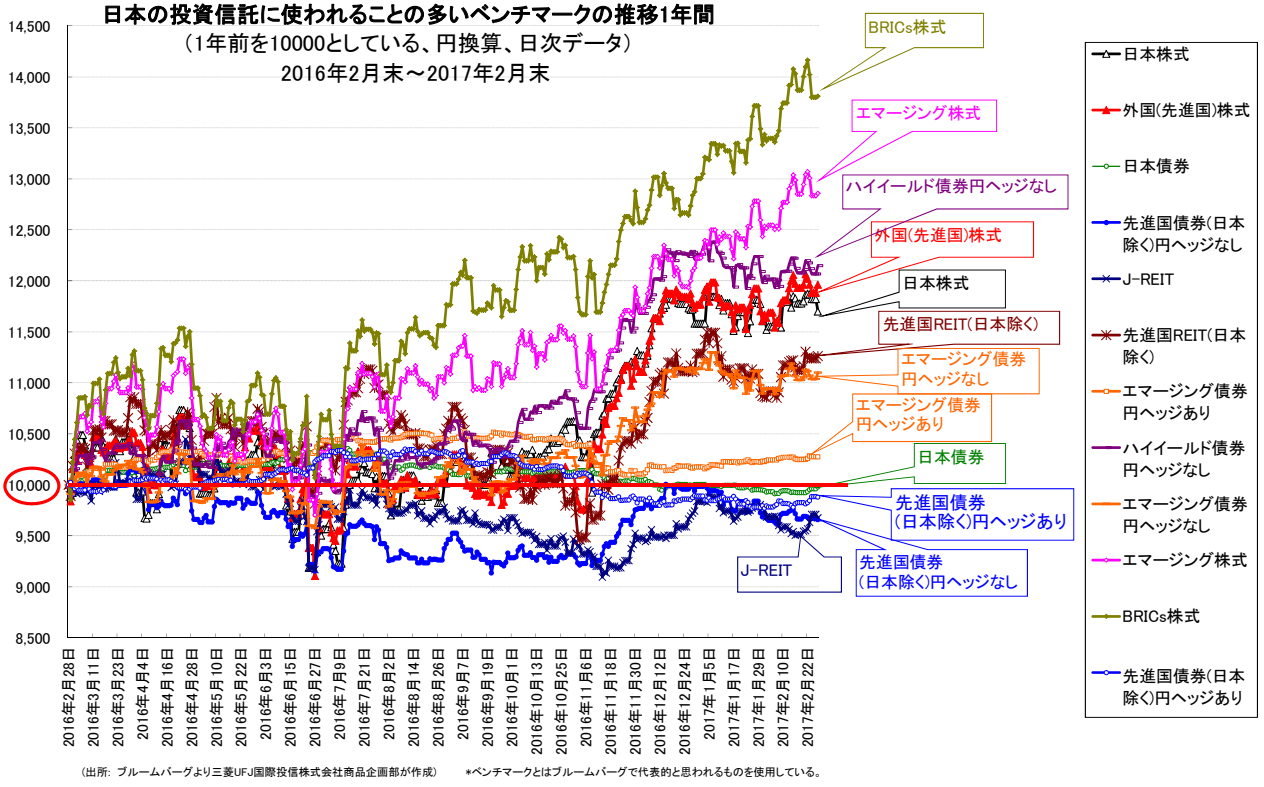
*国内投信… 単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)
インデックス… TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本国内投信
月次・純設定
主要分類別



(出所: Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たところ、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs 株式、エマージング株式、ハイイールド債円ヘッジなし、先進国株式、日本株式、先進国 REIT、エマージング債円ヘッジなしとなっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。前述した様に2017年2月の投信全体でグローバル株、アジア株(除く日本)、ハイイールド債などは純設定が大きかったが、パフォーマンスの好調さによるところもあろう。

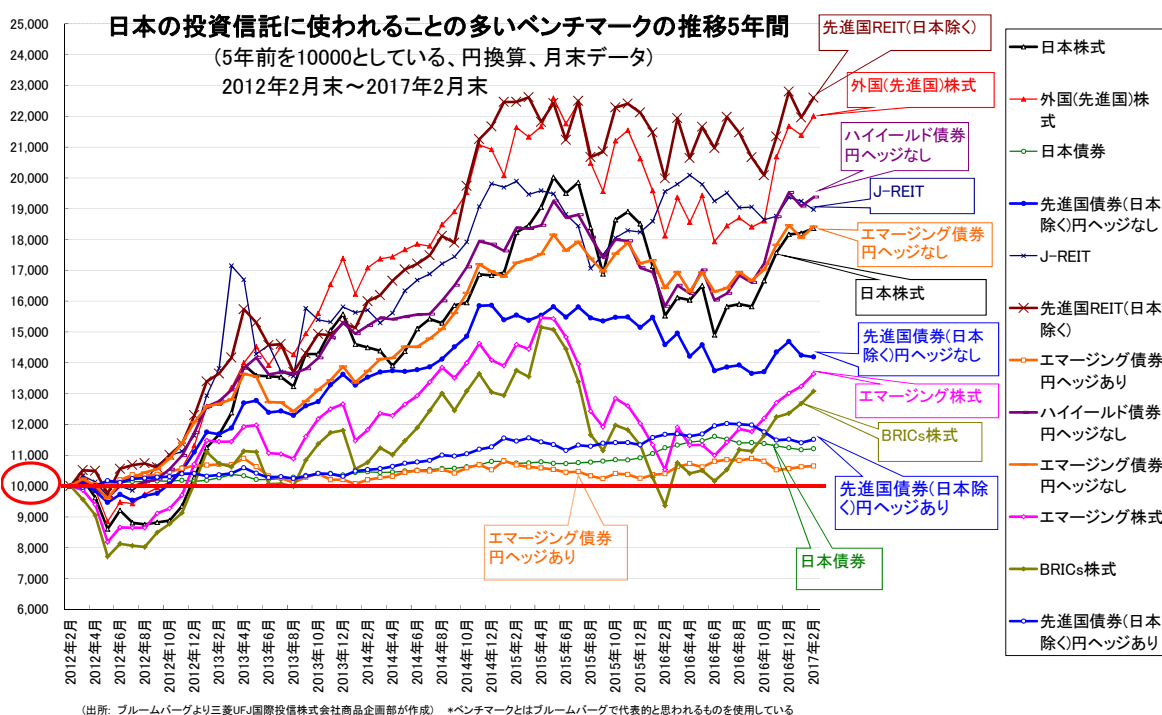


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

先進国 REIT は、3 年や 5 年で見れば、上記グラフのベンチマークで最も好かった。ただ、1年では 6 番目、2016 年 8 月末からの半年では 7 番目に好かった。

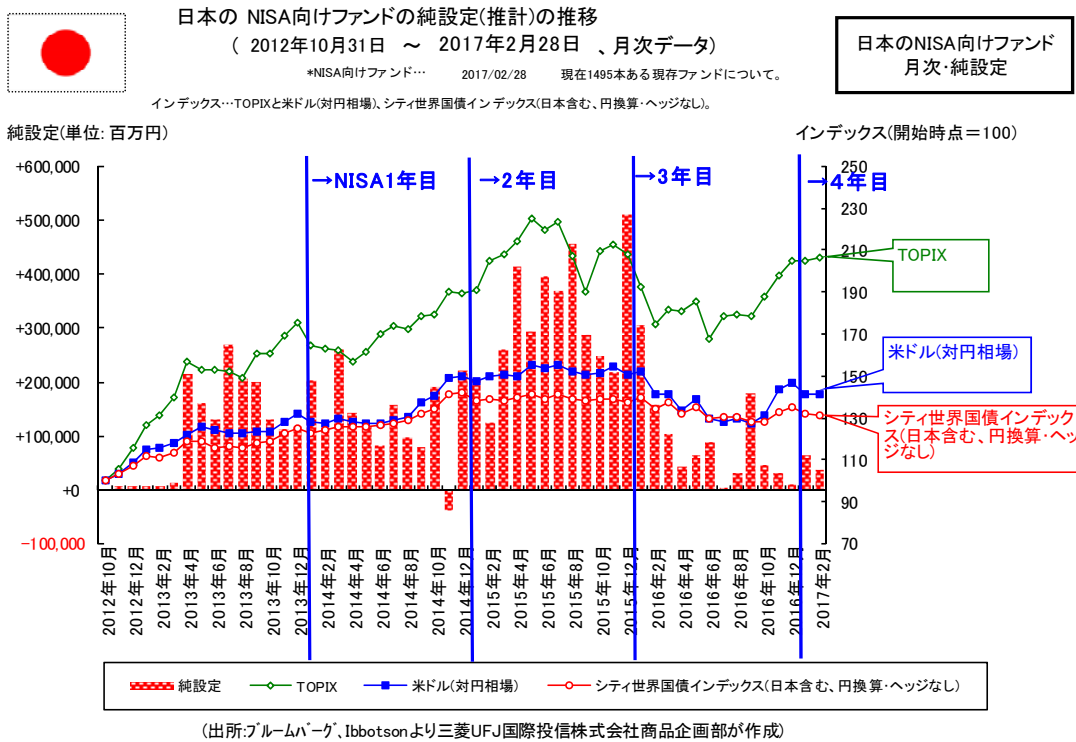
日本株のパフォーマンスは、3 年や 5 年で見れば、上記グラフのベンチマークで BRICs やエマージング株を上回るパフォーマンスだったが、足元 1 カ月・3 カ月・1 年では BRICs やエマージング株に劣後し、1 カ月では好い順で 8 番目だった。

下記のグラフは以上の 5 年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、ハイイールド債円ヘッジなし、J-REIT、エマージング債券円ヘッジなし、日本株式となっている(*グラフは 5 年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは、5 年で見れば、下記グラフのベンチマークで 2 番目に好く、3 年では 3 番目に好く、2016 年 8 月末からの半年で見ると、最も好かった。こうしたパフォーマンスの好きがグローバル株への人気につながっている様に見える。



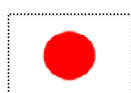
2017年2月にNISAの新規投資家はグローバル株・アロケーションファンドを志向

次に新規投資家を示すNISA向けファンドの純設定を見る。**既存投資家の動向を示す投信全体では4カ月ぶりの純流入となったが、NISA向けファンドの純設定は、最新2017年2月は+368億円と前月1月の+623億円を下回るものの、2014年12月以降2年3カ月連続の純流入である。**



※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]⑤)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2017年2月28日時点で1527本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年2月の純設定1位はグローバル株(前月1月も1位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(同2位)、3位は米国大型ブレンド株(同6位)だった(次頁グラフ参照。アセットアロケーション、米国大型ブレンド株は「その他」に含まれる)。**

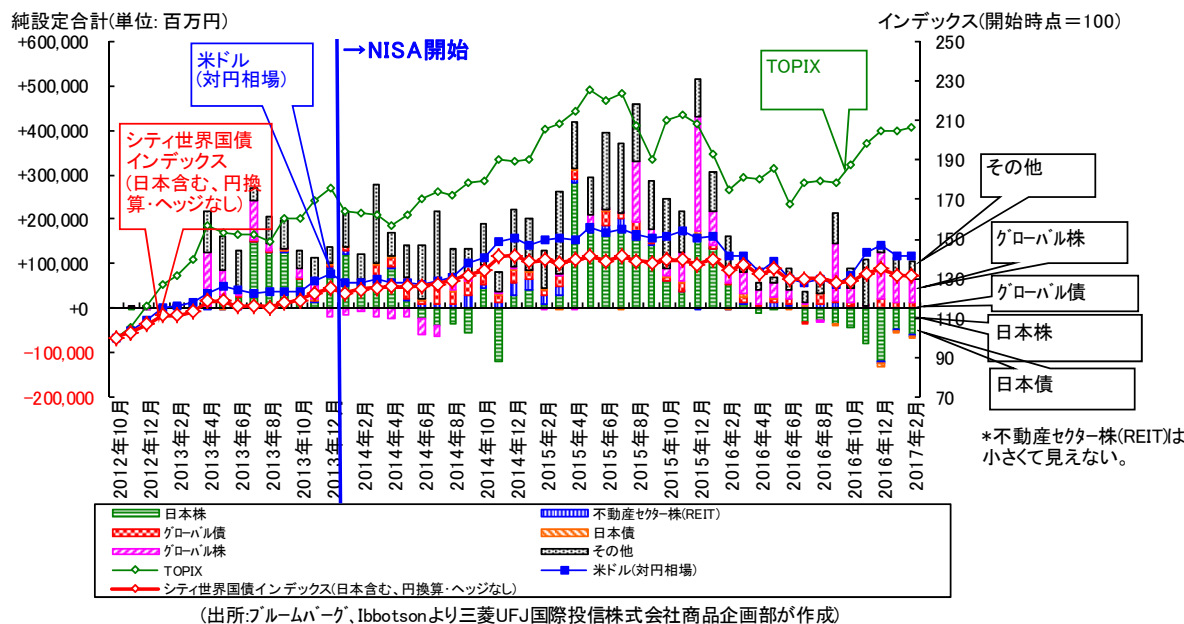


日本のNISA向けファンドの純設定(推計)の推移
(2012年10月31日～2017年2月28日、月次データ)

*NISA向けファンド…ETFを除く追加型

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
月次・純設定
主要分類別



2016年1年間の純設定額が+5027億円とNISA向けファンドでは最大だったグローバル株は、投信全体と同様2月も純設定額が最大で、2016年9月から6カ月連続の純流入である。2位のアセットアロケーション柔軟型だが、2015年・2016年の年間の純設定額も2位だったが、2017年についても純流入が継続している。

「米トランプ政権の政策や欧州各国の選挙など不透明要因が重なり、国際分散投資を改めて意識したい局面だ。」(2017年3月2日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]⑥)や「NISAの非課税枠は年120万円の上限があります。値上がりした資産を売ってもその分の枠は再利用できず、リバランスが難しい面があります。バランス型は運用会社が資産配分の調整をしてくれるため、個人は投信自体を売却する必要がなく、投資枠を温存したままリバランスができます。」と言われている(2017年1月28日付日本経済新聞朝刊～URLは後述[参考ホームページ]⑦)。

一方、日本株は、2015年1年間の純設定額最大(+1.4兆円超)から、2016年は-1667億円と、年間純流出最大となり、2017年も2月にかけて8カ月連続の純流出となっている。

2017年2月はネット証券の投資家は日本株を志向

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2017年3月2日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ]⑧)。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新2017年2月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・5位は日本株ファンド、2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位はグローバル株ファンド(インデックスファ

ンド)となっている。前月1月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10は、1・4・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はグローバル株ファンド(インデックスファンド)、3位は日本株ファンドだった。また、週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週2月20日から2月24日までは、1・4位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド(インデックスファンド)、3位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位は商品・バスケットファンドとなっている。一ヶ月程前の1月23日から1月27日までは、1位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はグローバル株ファンド、3~5位は日本株ファンド(2・5位はインデックスファンド)だった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2月20日から2月27日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位は商品・バスケットファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(3位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の1月23日から1月27日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・2位はグローバル株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンド、4・5位は日本株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2月20日から2月24日までのNISA投資信託・買付金額の1・5位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター株(REIT)ファンド(3・5位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の1月23日から1月27日までのNISA投資信託・買付金額の1・2位はグローバル株ファンド(2位はインデックスファンド)、3位は不動産セクター株(REIT)ファンド、4位は日本株ファンド、5位はエマージング株ファンドだった。

<ジュニアNISA投資信託>

○SBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2月20日から2月27日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1位は日本株ファンド、2・3・5位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(2・5位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の1月23日から1月27日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・4位はグローバル株ファンド、2・3位はアセットアロケーションファンド、5位は日本株ファンド(1・3位はインデックスファンド)だった。

<NISA積立~2017年3月2日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2017年2月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・2位は日本株ファンド、3・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2016年7月~2017年1月と順位は同じ。2~4位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週2月20日から2月27日までのNISA口座では、1・3位は日本株ファンド、2・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2~4位はインデックスファンド)。

ネット証券では、日本株の人気が見られ、次いでグローバル株、不動産セクター株(REIT)が人気だった様だ。

以上、こうした情報が、2017年からの4年目のNISAを検討する際、投資家の参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

- ①2017年2月28日(火)付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」(平成28年12月末)…
「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170228-1/01.pdf>」
- ②2017年2月27日付日本証券業協会公表の主要証券会社10社のNISA口座開設・利用状況の調査結果(2017年1月末時点)…「<http://www.jsda.or.jp/shiryō/chousa/nisajoukyou.html>」
- ③2017年2月27日付けニッキン投信情報…「<http://www.nikken.co.jp/toushin/>」
- ④2017年1月17日(火)付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」(平成28年6月末)…
「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/datacollection/index.html>」
- ⑤2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」
- ⑥2017年3月2日付日本経済新聞電子版「『バランス型』の騰落率 新興国関連が上位に 投信番付」…
「http://www.nikkei.com/my/#!/article/DGXKZO13568630S7A300C1ENK001/n_cid=my_top_pickup_list/」
- ⑦2017年1月28日付日本経済新聞朝刊「初心者の投信選び 値動き安定のバランス型は長期向き」…
「<http://style.nikkei.com/article/DGXMZO12205170X20C17A1PPE001?channel=DF280120166591>」
- ⑧SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」
- 楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」
- マネックス証券のNISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。